大鰐町熊野宮八幡宮のイチョウの保護・保全事業実施報告書です。

名木の所在地	青森県南津軽郡大鰐町居土字観音堂1（熊野宮八幡宮 境内）
名木の名称	イチョウ　推定樹齢700年
名木の所有者	大 鰐 町
治療年月日	平成27年7月9日
樹木医による 名木の診断内容	熊野宮八幡宮には、町天然記念物のイチョウ及びカツラのほか幹回り3m以上のイチョウやスギが多く存在する。 全体的に隣接木の被圧による衰退が見られるが、町指定天然記念物にイチョウや本殿に向かう参道沿いに対で生育するイチョウは太枝の折損から腐朽し、幹の空洞化が進んでいる。 また、本殿へ向かう参道側は踏圧による土壌の固結化が進んでおり（中山式硬度計計平均23）、現在、イチョウ特有の性質であるヒコバエの成長による幹の肥大化が望めない状態である。 よって、根の伸長成長を促進し、当該樹木の樹勢回復を図りヒコバエの成長を促すことを目指す。
実施した治療内容	土壌改良工（固結した土壌の団粒化及び有機質化促進） 折損枝の剪定（はしごが届く高さのみ）
今後の名木に 対する留意事項	経過観察する。

大鰐町居土

熊野宮八幡宮のイチョウの木です。

土壌改良剤混合

栄養剤の散布